

令和6年度「人権教育研究指定校事業」指定校事業報告書

委託先（ 石川県 ）

1. 調査研究のテーマ、概要

調査研究のテーマ	豊かな人間関係を築く児童生徒の育成をめざして
----------	------------------------

○調査研究のテーマを設定した目的

近年、いじめや虐待など、「子どもの人権」に関する問題が全国的に関心を集めているが、本県においても児童生徒間のトラブルが少なからず存在しており、児童生徒が安心して生活し、学べる、人権が尊重された環境づくりの必要性が高まっている。また、学校教育における児童生徒の学びは若い世代の意識の向上につながるとともに、家庭や地域にも波及することが期待される。

このことから、学校における全ての教育活動を通じて、人権や人権擁護に関する知的理解と、それらを直感的に感受し、共感的に受けとめる感性や人権感覚の涵養を基盤として、自他の人権を守ろうとする意識・意欲・態度、実践的な行動力など、児童生徒の様々な資質や能力の育成をめざす。

○調査研究の概要

児童生徒一人一人が尊重されるとともに、互いのよさや可能性を認め合い、豊かな人間関係を築く児童生徒の育成をめざした学校づくり、授業づくりについて研究する。また、組織的に人権教育を推進するための校内体制の確立と、人権教育に係る教職員の資質及び指導力の向上を図るための研修についても研究を進める。本研究指定校を、本県の人権教育推進の核と位置付け、実践事例や研究成果を県内に広めることによって、人権教育の一層の充実を図る。

2. 基本情報

研究指定校の概要

○学校名

川北町立川北中学校

○これまでの研究指定等の状況

H26・27年度 石川県教育委員会指定 いしかわ道德教育推進事業
H27・28・29年度 石川県教育委員会指定 学びの組織的実践推進事業
H30・R元年度 石川県教育委員会指定 英語教育強化拠点地域事業
R5・6年度 文部科学省指定 人権教育研究指定校事業

○学級数

7学級（うち特別支援学級：1学級）

○児童生徒数

全生徒数：208名（令和7年2月4日現在）

○URL

<https://cms1.ishikawa-c.ed.jp/kawakj/>

○指定理由

川北町立川北中学校は、川北町唯一の中学校である。素直な生徒が多く、落ち着いた学校生活を送っている。しかし、生徒数がそれほど多くない学校生活を送ってきたこともあり、人との関わりの中で人間関係を築くことが苦手である。自分自身を肯定的に捉えることができなったり、特定の人としか関わりを持てなったり、周りの目を気にしすぎて正しい行動ができなったりする生徒も見られる。また、多様な他者と接する機会が少ない状況にある。

このような現状の中、研究校に指定することでより組織的な人権教育を推進し、自分や他者の価値を尊重しようとする意欲・態度や、多様性に対する開かれた心を育む取組の実際を広く普及できるものと期待する。

3. 取り組んだ人権課題について

取り組んだ人権課題（該当するものに○印。複数選択可。うち、最も主要な人権課題1つに◎をつけること。）※人権教育研究推進事業公募要領（別紙）「2. 事業の内容」を必ず確認すること。

①子供	◎
②女性	
③高齢者	○
④障害者	
⑤ <u>同和問題</u>	○
⑥ <u>アイヌの人々</u>	
⑦ <u>外国人</u>	○
⑧-1 HIV感染者等	
⑧-2 <u>ハンセン病患者等</u>	○
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	
⑪インターネットによる人権侵害	○
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬性的指向、性自認	○
⑭その他（ ）	

4. 調査研究の内容等

○調査研究の内容

表 2	質問内容【教職員アンケート】	4月回答 (%)		12月回答 (%)	
		当て はまる	肯定的 回答	当て はまる	肯定的 回答
⑥	人権教育の指導を進めるにあたり、協働的・参加的な学習を取り入れる、体験活動や交流活動を多様に組み入れるなど、指導方法の工夫を行っている	17.6	76.4	25.0	87.7
⑦	集団活動において、生徒が、自己を生かすことのできる場を適切に設けている	17.6	94.1	18.8	93.8
⑧	集団活動において、生徒が、互いのよさを認め合い協力する機会を適切に設けている	23.5	94.1	25.0	93.8
⑨	積極的生徒指導の視点に立って、相互に人権を尊重し、支え合う人間関係づくりを援助している	11.8	76.5	11.8	94.2

下の表1・表2は、令和5年度に実施したアンケートの結果である。

表 1	質問内容【生徒アンケート】	4月回答 (%)		12月回答 (%)	
		当て はまる	肯定的 回答	当て はまる	肯定的 回答
①	自分には、よいところがあると思う【価値的・態度的側面】	48.8	85.6	50.0	86.2
②	自分と同じように、相手のことを大切にしている【技能的側面】	60.2	93.6	63.2	95.9
③	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている【技能的側面】	51.6	92.2	57.6	94.8
④	思いやりを持った行動ができている【技能的側面】	56.4	95.2	61.2	95.9
⑤	学校が楽しいと思う【価値的・態度的側面】	50.3	91.3	54.6	92.6

令和5年度に、教育活動全体を通して人権尊重の視点に立った様々な取組を推進してきたことにより、表1の①から⑤の項目において、「当てはまる」及び肯定的回答が向上した。ただし、①「自分にはよいところがあると思う」において、「当てはまる」及び肯定的回答が目標を下回っていたことから、自己に対する肯定的態度の高まりが十分ではないと考えられる。

表2では、「当てはまる」及び肯定的回答が多く項目で向上した。ただし、⑨「積極的生徒指導の視点に立って、相互に人権を尊重し、支え合う人間関係づくりを援助している」において、「当てはまる」の回答に変化が見られなかった。

このような現状から、自他の人権感覚の育成を土台とした学校づくりをめざして本調査研究を行う。その際には、これまで本校が実践してきた生徒主体の取組の他、全ての教育活動において、意図的に生徒指導の実践上の4つの視点を取り入れた指導を行う。また、様々な教科において、家庭・地域等との連携を積極的に行い、人権教育を総合的に推進していくことで、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる人権感覚」を養い、自尊感情や自己肯定感を高めることができると考えた。

校内では、「学習活動づくり」、「人間関係づくり」、「環境づくり」が一体となった取組を全

教職員で推進していく。「学習活動づくり」では、生徒が主体的に授業に取り組み、自ら問題や課題、学習方法等を選択・決定し、一人一人が大切かつ必要とされる温かい授業をめざす。「人間関係づくり」では、能動的に聴くことで互いの相違を認め、受容し、自己有用感の高まりをめざす。また、相手の立場に立って考え、行動できる共感的な人間関係の育成もめざす。「環境づくり」では、人間関係を深め、安心して過ごせる学級・学校づくりをめざし、生徒一人一人が、個性的な存在として尊重され、安全かつ安心して教育を受けられるように配慮する。このような取組を進めることで、生徒の人権感覚を高めることができると考えている。

○実施方法

人権教育を通して育成を目指す資質・能力の育成に向けて、「知識的側面」、「価値的・態度的側面」及び「技能的側面」を総合的に位置付けながら以下の取組を実施した。

①人権尊重の視点に立った「学習活動づくり」の推進

ア 生徒一人一人の可能性を引き出す授業づくりの推進

提案授業や授業研究、授業交流を通して、教員のめざす授業像の共有化を図った。

生徒一人一人が「わかった！できた！」と感じられるような授業づくりに向け、教科部会等での単元構想を大切に、考えや意見を伝え合う場の設定や教師の手立て等、話し合いを重ねた。また、教科等横断的な学習を行うために、人権教育カリキュラムを作成し、人権課題に関わる単元の明確化と、人権課題を軸に他教科とのつながりを見える化した。

イ 自己決定の場を大切にした生徒主体の授業への改善

研究主題・副題の実現に向け、生徒指導の実践上の4つの視点を取り入れた生徒主体の授業づくりをめざし、具体的な教師の関わりについて教科の垣根を越えて意見を出し合った。その意見と川北町の全ての小・中学校で共通して取り組んでいる「かわきた授業スタイル」をもとに「川中スタンダード」を作成し、1時間の授業をどのようにつくるか共通理解を図り、全ての教科で実践を重ねた。また、生徒とともにめざす授業像の共有化を図るために、学期に1度、生徒会主導で全校生徒参加の模擬授業を行った。生徒会の生徒が教師役となって1時間の授業を行い、全校生徒は生徒役となって参加した。生徒主体の授業にするための取り組み方や自己の学びを深めるための協働的な学習の方法について、実演を通して共有化を図った。

ウ 家庭・地域、関係機関との連携

様々な立場の人の考えを知るために、家庭や地域の方にゲストティーチャーとして授業に参加していただいた。第2・3学年の総合的な学習の時間では、様々な人権課題の中から各自で1つ選び、テーマを決め、インターネットや本等で調べたり、アンケート調査を実施したりして、課題研究を行った。その際に地域の方にアドバイザーとして参加していただき、生徒一人一人に自身の経験を語っていただいた。また、道徳では保護者参加型の授業を行い、大人の考えを語っていただいた。

②人権尊重の視点に立った「人間関係づくり」の推進

ア 生徒指導の実践上の4つの視点に立った組織的な教育活動の充実

研究部と生徒指導部が連携し、校内研修会において、どのような場面で生徒指導の実践上の4つの視点を意図的に取り入れた指導をすればよいか、具体を示しながら共有化を図り、実践を重ねた。また、生徒指導の実践上の4つの視点や学校研究に関わる内容についてのチェックシートを作成し、授業の振り返りが行えるようにした。毎月末に授業者に記入してもらい、研究主任と生徒指導主事で集計し、△や×が多い項目を課題として捉え、校内研修会を企画・実施した。

イ 能動的な傾聴、適切な自己表現を可能とするコミュニケーションスキル向上の場の充実

聞く・伝えるといったコミュニケーションスキルの向上を図るとともに、性別を問わず多くの人と良好な関係を築くことをめざして、構成的グループエンカウンターを定期的に行い、学級や学年の実態に合わせて実施した。

ウ 多様性に対する開かれた心の育成と肯定的評価を高めるための生徒会活動の推進

互いのことを深く知り、温かい人間関係の育成をめざして、終礼時に、当番がその日に笑顔になった場面等を発表する「Speciality トーク」や週に1度様々なテーマについて多くの人と会話をする「1分間トーク」を生徒会主導で行った。

③人権尊重の視点に立った「環境づくり」の推進

ア 安全・安心な生活・学習ができる場づくりの推進

生徒にとって安全・安心な生活と学習環境づくりのために、生徒指導の実践上の4つの視点を意図的に取り入れてきた。安心して授業に取り組むことができるように、教師からの温かな言葉かけを行うことや授業の見通しを持たせたことなど、学校全体で取り組んできた。また、全校生徒参加の模擬授業の中で、生徒会の生徒がグループ学習の方法も示し、自分と同じ考えも異なる考えも受け止めることや、相手の考えを聞く際に反応をする等、温かなグループ学習についても共有化を図った。

イ 校内や教室内の人権に関する掲示やコーナーの充実

生徒が人権課題について触れる機会を設けるため、各学年教室前に人権図書コーナーを設置した。文化委員会の生徒が選書をしたり、本のポップを書いたりすることで、人権課題を身近に感じ、いつでも本を気軽に手に取って見ることができるようにした。各学年の人権課題に関する授業や全校集会、人権講話等の掲示物をリーダー会の生徒が作成し、学びの足跡を残した。これまでの学びを振り返ったり、深めたり、新たな発見ができる場とした。

ウ 人権学習の成果を校内外へ発信する機会の設定

毎月末を「道徳の日」とし、道徳での学びを保護者と話す機会を設けた。また、各学期に1度、保護者からコメントもいただいた。1つの教材を通して、家族で思いを伝え合うことで、道徳での学びがさらに深まり、新たな視点を知る機会となった。また、校内での様々な取組を学校だよりやホームページで紹介し、校外への発信も積極的に行った。

○検証・評価・改善・普及

〔検証・評価〕

生徒や教職員の変容をアンケートで検証した。

表 3	質問内容【生徒アンケート】	4月回答 (%)		12月回答 (%)	
		当て はまる	肯定的 回答	当て はまる	肯定的 回答
1	自分のよいところを知っている（気付いている）【価値的・ 態度的側面】	39.5	83.8	43.9	84.7
2	自分と同じように、相手のことを大切にしている【技能的 側面】	54.5	97.2	53.4	98.4
3	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活 動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決 めている【技能的側面】	37.4	89.2	45.5	93.1
4	思いやりを持った行動ができています【技能的側面】	53.4	96.7	50.8	95.5
5	学校が楽しいと思う【価値的・態度的側面】	54.0	90.8	52.8	89.4
6	学校は、もめごとなど私たちが困っていることについてよ く助けてくれると思う	52.4	90.9	49.7	92.1
表 4	質問内容【教職員アンケート】	4月回答 (%)		12月回答 (%)	
		当て はまる	肯定的 回答	当て はまる	肯定的 回答
1	人権教育の指導を進めるにあたり、協力的・参加的な学習を取り 入れる、体験活動や交流活動を多様に組み入れるなど、指 導方法の工夫を行っている	26.7	93.9	37.5	100.0
2	集団活動において、生徒が、自己を生かすことのできる場 を適切に設けている	20.0	100.0	31.3	100.0
3	集団活動において、生徒が、互いのよさを認め合い協力す る機会を適切に設けている	25.0	100.0	50.0	100.0
4	積極的生徒指導の視点に立って、相互に人権を尊重し、支 え合う人間関係づくりを援助している	31.3	100.0	50.0	100.0
5	人権教育に関する連携に限らず、家庭や地域と連携した取 組を日頃から積極的に進め、相互の信頼醸成に努めている	6.7	66.7	62.5	87.5

① 人権尊重の視点に立った「学習活動づくり」の推進

「自分と同じように、相手のことを大切にしている【技能的側面】」という項目では、肯定的な回答が1.2%増えた。また、教職員アンケートの「人権教育の指導を進めるにあたり、協力的・参加的な学習を取り入れる、体験活動や交流活動を多様に組み入れるなど、指導方法の工夫を行っている」という項目では、肯定的な回答が93.9%から100.0%に向上した。どの教科でも、生徒一人一人を大切に、生徒主体の授業をめざして授業改善を進めてきた成果だといえる。必要感のある学び合いの場を設け、自他を尊重する言葉かけをすることで人権の【価値的・態度的側面】の育成にもつながった。また、昨年度に引き続き、全教職員で共通理解・共通実践することを大切にできたことにより、教職員の授業改善の意識がさらに向上させることができた。

② 人権尊重の視点に立った「人間関係づくり」の推進

「自分のよいところを知っている【価値的・態度的側面】」という「自己に対する肯定的態度」の項目は、昨年度から本校の実態として向上をめざしてきたものである。

「当てはまる」と回答した生徒が4.4%増えたことより、様々な取組がめざす生徒像へとつながったといえる。また、教職員アンケートの「集団生活において、生徒が互いのよさを認め合い協力する機会を適切に設けている」という項目では、「当てはまる」と回答した教職員が25.0%から50.0%に、「積極的生徒指導の視点に立って、相互に人権を尊重し、支え合う人間関係づくりを援助している」という項目では、「当てはまる」と回答した教職員が31.3%から50.0%と大きく向上し、肯定的回答は4月から100%を維持することができた。全ての教育活動において、共通理解を図った上で、月末に自己評価を行う等、全教職員が生徒指導の実践上の4つの視点を常に意識してきたことや、生徒会による様々な人間関係づくりの取組により、自他を尊重し合う温かな雰囲気づくりにつながったと考えられる。

③ 人権尊重の視点に立った「環境づくり」の推進

「学校は、もめごとなど私たちが困っていることについてよく助けてくれると思う」という項目では、肯定的な回答が1.2%増えた。また、生徒の振り返り等には「差別や偏見が私たちの無意識に潜んでいることに気付いた。根深い差別をなくすために、意識して偏見や無理解をなくすことと、多様性を認め、自分とは違う相手の生活習慣や考え方などを理解・尊重していきたい」等、人権の【知識的側面】及び【価値的・態度的側面】の意識の向上があった。学校全体で安全・安心の場づくりを行ったり、人権図書コーナーや人権課題に関する掲示を充実させたりした成果だと考えられる。

〔改善〕

今後も、一人一人が尊重される温かな学校づくりをめざしていく。そのために、これまでの様々な取組を見直しながら継続していくことが重要である。授業において、一人一人が安心して自分の考えや思いを伝えることができるような人間関係づくりや学級づくりを学校全体で取り組んでいくとともに、生徒の発言をつなげる工夫や聞き合うことにより、互いの思考力を高め、ともに成長できるような生徒主体の授業をつくっていききたい。そのことにより、人権の3つの側面の意識を高め、生徒とともに温かな学校づくりを進めていくことができると考える。

〔普及〕

人権課題に関する取組や講演、生徒の感想など、本研究の取組を本校ホームページで発信している。また、川北町の広報で「人権講演会」の開催を事前に紹介したところ、地域住民の来校があったり、授業の様子を新聞やケーブルテレビで取り上げていただいたり、町全体への発信にもつながった。今後も継続して校内での取組を発信し、地域とともにある温かな学校づくりを推進していく。

5. 人権教育にかかると年間計画

人権教育年間計画		川北町立川北中学校		(別紙 2-3)											
月	第1学年				第2学年				第3学年						
	題材	内容				題材	内容				題材	内容			
		1	2	3	4		1	2	3	4		1	2	3	4
4	生徒会 旗プロジェクト開始 生徒会 教育委員会(インターネットによる人権授業) 日本国憲法(同和問題)	○				生徒会 旗プロジェクト開始 生徒会 教育委員会(インターネットによる人権授業) 日本国憲法(同和問題)	○				【英語】Unit 1 Sports for Everyone(楽しいスポーツ) 【道徳】小さな出来事(C11)公正、公平、社会正義 【国語】板手 生徒会 旗プロジェクト開始 生徒会 教育委員会(インターネットによる人権授業)				○
5		○				【国語】クマゼミ増加の原因を探る(環境問題) 【道徳】夢中になるのは悪いことか(11)節度、節制			○		日本国憲法(同和問題) 【道徳】百歩を10(B8)思いやり、感謝 【道徳】魂をこめて(道徳いしかわ) (D12)よりよく生きる意/意 【国語】作られた「物語」を起スエ				○
6	【道徳】嵐の涙(C11)公正、公平、社会正義			○		【道徳】明日、みんなで遊ぼう(C11)公正、公平、社会正義 【道徳】異なり記念日(C14)家族愛、家族生活の充実			○		【社会】男女共進 【道徳】三年目の「ごめんね」(A11)自責、自悔、自問と責 【道徳】がんばれおまえ(A3)向上心、習性の伸長 【道徳】私がピンク色のキャップをかぶるわけ(B8)愛情、横断 【国語】読解力のある構成を考えよう(スピーチ) 日本文化について探究する				○
7	【国語】話の構成を工夫しよう(スピーチ) 【社会】アフリカの歴史と文化			○		【社会】二つの世界大戦と日本 【道徳】寝ボールベッドへの思い(C13)勇気 人権作文 探究活動			○		【家庭】保育実習 平和について探究する 「修学旅行に向けて」				○
8	平和委員会 いじめポスター 生徒会	○				平和委員会 いじめポスター 生徒会	○				平和委員会 いじめポスター 生徒会	○			
9	いじめ模範 【国語】大人になれなかった弟たちに... (戦争、平和) 【探検】異性の尊厳と性権への対応	○				いじめ模範 【家庭】安全な住まいで安心な暮らし 【美術】デザインで人生を豊かに 【国語】字のない葉書(戦争、平和) 人権問題を探究する			○		生徒会 いじめ模範 【道徳】アイツとオレ(B9)相互理解、寛容 平和と文化について探究する 修学旅行 【英語】Unit 4 Be Prepared and Work Together(外国人と防災) 【国語】扶養(戦争、平和) 【道徳】一翼を授けることの重み(C12)社会参画、公共の精神				○
10	【音楽】クラス合唱 【道徳】やっぱり岩田は(C11)公正、公平、社会正義 文化祭(自己開示・他者理解) 人権講話(思春期講座) 【社会】移民の歴史と多文化社会へのあゆみ			○		【音楽】クラス合唱 【国語】モアイは語る 地球の未来(環境問題) 人権問題を探究する 文化祭(自己開示・他者理解) 人権講話(思春期講座) 【道徳】アンのパラ(C13)国際理解、異文化理解 人権問題を探究する			○		【社会】社会福祉 【社会】バリアフリーの視点 【音楽】クラス合唱 【道徳】肩の中の炎(α10)道徳精神、公傷心 文化祭(自己開示・他者理解) 人権講話(思春期講座) 【英語】Unit 5 A Legacy for Peace(人権差別) 【音楽】ポピュラー音楽				○
11	人権委員会(ハンセン病患者等) 【探検】運動やスポーツの多様性 生徒会 【英語】Unit 9 Think Globally, Not Locally(国際関係) 職業講話 職業について探究する	○				人権委員会(ハンセン病患者等) 【探検】運動やスポーツの意義 【道徳】アインの歌を歌いたい(A14)希望と勇気、死と強い意志 生徒会 平和学習 【美術】暮らしに息づくパブリックアート			○		人権委員会(ハンセン病患者等) 【道徳】家族って?家族って?(C14)家族愛、家族生活の充実 【探検】文化としてのスポーツの意義 【社会】人間の尊厳と日本国憲法 生徒会 【社会】地域社会とわたしたち 【英語】Unit 6 Beyond the Border(国際協力) 【理科】自然と人間				○
12	【道徳】異文化の人々と共に生きる(C13)国際理解、国際貢献 職業講話 職業について探究する	○				立憲式 平和学習			○		【道徳】希望の豊足(C13)国際理解、国際貢献 【家庭】家族生活と地域のかかり(道徳学、地域社会等) 【国語】温かいスープ				○
1	【国語】話や展開を改めて話し合おう(グループディスカッション)			○		平和学習 【国語】立場を尊重して話し合おう(討論)			○						○
2															
3															

<内容> 1. 特別活動 2. 道徳 3. 各教科 4. 総合的な学習の時間

6. 推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）

